俳人協会
岐阜県支部会報
第39号
発行者　今津　大天
発行所　俳人協会
岐阜県支部事務局
〒502-0903　岐阜市美島町4-33
船戸成郎　方
TEL・FAX 058-231-5068
振替口座　00870-9-77529

# 第二十一回 芭蕉の道俳句大会

## ―井越芳子先生を講師に―

塚本　睦

初夏を迎え空の青さが新鮮な五月十四日（土）十三時より、岐阜市の「じゅうろくプラザ」にて、「第二十一回芭蕉の道俳句大会」が開催された。令和四年度からの新体制となって初の大会は、新型コロナウイルスの感染拡大がなお懸念される中、十分な対策を図った上で三年振りの開催となった。参加者数は約二一〇人。

今津大天支部長による開会挨拶の後、講演会となった。講師は、「青山」副主宰で協会評議員の井越芳子先生にお務めいただいた。井越先生には、第十九回大会にてご講演いただく予定であったが、コロナ禍により中止とさせていただいた経緯がある。今回、演題を「格に入り格を出づ」として、次のようにお話しくださった。

講演の冒頭には、岐阜県内の結社の活動に触れられ、また俳人協会の歩みや俳句文学館の様々な取り組みなどもご紹介くださった。講演の本題では、先生ご自身の俳句との関わり方の体験を軸に、俳句への向き合い方などについて話された。

俳句文学館での仕事や上田日差子氏との出会いを契機に始めた俳句、約十年間の作句のブランクと悩み、山崎ひさを氏より俳句への能動的な関わり方を教えられたことなど、人間関係を織り交ぜながらのお話から、心の動きが伝わってきた。

また、「朝日俳句新人賞」への応募で、賞獲得を目指すことより一年間に詠んだ俳句をまとめるのが楽しかったこと、句会で主宰に選句されなくても気にはならず、俳句に向き合っていることの喜びが大きかったことなどを語られたエピソードには、俳句に対する姿勢を改めさせられる思いがした。

講演中の井越芳子先生

俳句結社「青山」入会後も「五十句を作る会」など様々な取り組みにより、「必死に俳句に向き合うこと」の大切さを学び、振り返れば、かつてのブランクがその後の作句の原動力につながったと話された。

さらに、名句の直観や閃きをテーマとした連載の執筆を通じ、やや敬遠していた阿波野青畝の作品に触れ、大きな感銘を受け、彼の句から対象を「見る」ことや「感じる」こと、そして「対象と一体化する」ことの大切さを学ばれた。これらが芭蕉の「格に入り格を出づ」に通ずると締め括られた。

講演後、事前応募句の選評を井越先生よりいただき表彰式、続いて当日句の選者選の結果の披講、選者代表の後藤和朗理事と瀬尾千草理事による選評、入賞発表と表彰式が行われた。

当日句の表彰　井越講師より

# 第21回　芭蕉の道俳句大会

## 令和４年５月14日（土）じゅうろくプラザ・ホール

### 入賞作品（応募句の部）

**俳人協会賞**
紙漉くや水の頁をめくるごと　七種　年男

**岐阜県支部賞**
まだ固き子のグローブや日脚伸ぶ　小林　栄美

**岐阜県知事賞**
春めくや磨いて譲る三輪車　松野登志江

**岐阜県議会議長賞**
病床の目線に飾る雛かな　安田　一義

**岐阜県教育委員会賞**
雛鏡この世小さく映しけり　蒔田多佳子

**岐阜市長賞**
拾ふ水捨てる水音紙を漉く　丹羽　光江

**岐阜市議会議長賞**
冬に入る巨木にうしろ姿あり　髙橋　喬子

**岐阜市教育委員会賞**
齢とは忍びよるもの去年今年　岩上　利一

**岐阜観光コンベンション協会賞**
一本が匂ひ梅林にほひ立つ　加藤いつ子

**秀逸賞**
鉤裂きの上衣つくろふ一葉忌　小島美智子
ねぎらひに上目でこたへ狩の犬　竹内すま子
日に風に野の息合わせつくしんぼ　堀　逸郎
窓百に百の暮らしや木の芽風　早崎美弥子
達筆良しくせ字直良し年賀状　澤田　光子
能面の裏は荒彫雪の果　遠藤　正恵
火生の火浴ぶる火渡り山笑ふ　山本　孝子
束になり飛ぶ光陰や春疾風　面手美保子
おすわりのやうやうできて雛の前　名和よちゑ
菜の花の香りどつかと輪中村　小川　幹雄
一片の雲に雪野の広さかな　宮本　光野
霜柱踏む靴底にある記憶　清水須磨子
朝刊の爆撃の二字余寒かな　谷村たみこ
父の名を印す一管冬の月　奥田みつ子
蜜柑山若者はみな島を出で　鈴木ミヨコ
好きな曲流して春の厨事　今井　紅葉
盛塩のひかりの粒や春立てり　杉山　保子

### 入賞作品（当日句の部）

**俳人協会賞**
ウクライナへ一枚の空麦笛吹く　遠藤　典子

**岐阜県支部賞**
三川の空をひとつに夕焼雲　後藤　政子

**岐阜県知事賞**
牡丹や百年住みし家を閉づ　塚本富士子

**岐阜県議会議長賞**
天空の棚田千枚夏燕　丹羽　光江

**岐阜県教育委員会賞**
母待ちぬ牡丹の見ゆる席空けて　廣瀬あや子

**岐阜市長賞**
夕さりの牡丹の吐息聞きにけり　江崎　和子

**岐阜市議会議長賞**
空に向きたるジャスミンの遊び蔓　村瀬　幹枝

**岐阜市教育委員会賞**
空つぽの電車の停まる余花の駅　河村　治子

**岐阜観光コンベンション協会賞**
まだ消えぬ戦火よ牡丹赤過ぎる　岩田　恵子

**秀逸賞**
トランクに入れる夏帯空路発つ　志野　蕗子
空腹に靴脱ぎちらす初帰省　安藤　亮子
牡丹剪るバケツの水を傍らに　大野　公子
ぼうたんに向かひて黙の外なかり　藤田佑美子
空に貼るちぎり絵のごと袋掛　七種　年男
空に打つ火矢のごとくに栃の花　舩戸　成郎
空海の渡海の絵図やお風入　尾崎恵美子
紫の空拡がれり桐の花　丹羽百合子
正直に生きて終の家牡丹燃ゆ　村井　田鶴
白牡丹昨夜の雨を零しをり　三浦　紀元
聖堂の空を離れず夏つばめ　荻原八重子
牡丹の崩れんとして暮れなづむ　上野　陽子
大空へ暴れ神輿の跳ね上がり　古田　雅通
一筋に歩む七十路白牡丹　武藤　政代
夏空や鳥居の影を踏まざりし　武藤　勇
ぼうたんの大きな白の静かさよ　塚本　睦
幼稚園空へポプラの若葉かな　奥田　宇滴
昼月の淡き空より棕櫚の花　近藤　磯子
入院の主に届けと牡丹咲く　岩田　佳子
緋牡丹をゆらして集ふセーラー服　小泉　裕子

## 井越芳子先生の講評

**拾ふ水捨てる水音紙を漉く**　丹羽　光江
紙漉きで繰り返される動作を拾う水、捨てる水と捉えて的確に言葉にされていると思いました。さらにもう一歩踏み込まれて、水音で動作を感じ取っておられるわけですけれども、水音に拾うと捨てるという二つの音を聞き分けている点に注目しました。

**冬に入る巨木にうしろ姿あり**　髙橋　喬子
広野にたつ巨木が眼裏に浮かんで参ります。「巨木にうしろ姿あり」と言われて思わず頷きました。この木の形を想像しているうちに何かが満たされてくるような思いが致しました。上五の「冬に入る」という季語の斡旋によるのだと思います。

**一本が匂ひ梅林にほひ立つ**　加藤いつ子
読んですごいと思いました。「一本が匂ひ」がすごいと思いました。梅林の中にいて一本の匂いを把握しているわけです。こういう把握は出来そうでなかなか出来ないのではないかと思います。私自身、まず言えないなと思いました。作者の発見ですね。

## 受賞のよろこび

**紙漉くや水の頁をめくるごと**　七種　年男
高校大学と現代詩に親しみ、見える物だけが全てではないと常に考えてきました。繰り返し紙を漉く作業を「水の頁をめくるごと」とみた、私の感覚的な表現に多くの方が共感して下さって感謝です。

**ウクライナへ一枚の空麦笛吹く**　遠藤　典子
今回の兼題「空」を念頭に、田園風景が広がる静かな町の空を見ていて、この空の彼方に戦火のウクライナがあるとの思いを新たにしました。下五の「麦笛吹く」に自分なりの祈りと希望を込めたつもりです。

## 俳句は手段

俳人協会岐阜県支部長　今津　大天

本年は芭蕉の道俳句大会を三年ぶりに開催出来ました。大会は本年で二十一回を数えます。岐阜支部は芭蕉の道俳句大会を行うことで支部の組織を改編し発展させてきたとも言えます。

ところで、俳句は十七文字の日本独特の表現手段です。従って何を表現するかは、表現者に任されていることになります。私は、何を表現するかに俳句の本題があると最近気づいたばかりの未熟者ですが、人生の最期に支部活動に貢献出来ることを嬉しく思います。

## 俳句のご縁

副支部長　荻原　正三

俳句を始めたのは大病で一年入院し生活が一変して、生きた証を何か残そうと病床から主宰の添削を受けたのがきっかけです。退院後は近くの句会に入会しました。句会では吟行に会食にと公私に渡るお付き合いで絆を深めました。やがて結社の仕事も手伝いました。俳句をやっていたご縁で多くの人との出会いが広がり、俳句の作り方、俳句の選、大会事務等技術的なことも習得出来ました。これも俳句が取り持つご縁です。この受継いだ技術を後続の人へも伝えて行きたいと思っています。

## 対面の良さ

副支部長　藤田真木子

今期も副支部長を務めることになりました。誠意をもって役目を果たしたいと改めて思っています。

第二十一回芭蕉の道俳句大会が対面で開かれました。皆様と同じ空間、同じ時間を共有でき、対面の良さを実感しました。対面と言えば、卒業生が教員対象の俳句の研修に行ったそうです。そこで教わった吟行に行きたいと言い出し、久し振りに会うことになりました。いつもは、せめて空間を共有しようと画面の背景を皆同じにしたリモート句会です。吟行で対面の良さを味わいたいです。

## 伝統の継続

副支部長　横田　義男

事務局長を三期務めましたが、先の総会におきまして副支部長という大役を仰せつかりました。

多くの先達の残された当支部の歴史と伝統を継続し岐阜県支部の中心的行事である芭蕉の道俳句大会の充実に努めてまいります。

言うまでもなく、当支部の発展は会員の方々のご協力によります。

お陰様で芭蕉の道俳句大会は二十一回目を迎えることが出来ました。今後も俳人協会の会報誌、ホームページに大会の活動を迅速に情報発信します。

会員の皆様、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 愚直に

事務局長　舩戸　成郎

この度、今年一月の総会で事務局長をさせていただくことになりました。事務局長という大役をたまわり大変責任を感じております。

コロナ禍ではありましたが、この五月十四日、第二十一回芭蕉の道俳句大会を皆様のご協力でなんとか終えることが出来ました。来年の第二十二回芭蕉の道俳句大会は、五月二十七日（土）を予定しております。今津大天県支部長はじめ理事の方々と協力し、皆様の俳句生活充実のため、俳句大会開催にむけて愚直に努めていきたいと思います。

今後とも、ご理解ご協力くださいますよう宜しくお願いいたします。

## 裏方に徹する

副事務局長　野村　務

事務局次長を仰せつかった野村です。至りませんが精一杯務めさせていただきます。名前のように。

これまでは、一参加者で大会に参加したことはありましたが、今回裏方として初めて関わりました。大会に至る準備、そして当日のそれぞれの役割等、事務局を中心に多くの人の力を結集して本会が成り立っていることを実感させていただきました。

県内の俳句を愛する人たちが、その結社や志向に関係なく繋がりを深めている姿に勇気付けられました。

どうぞ、よろしくお願いします。

# 岐阜県支部総会
# 新役員決まる

### 俳人協会岐阜県支部令和４年役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 所属 |
|---|---|---|
| 顧問 | 所山花 | 椰 |
| | 佐藤をさむ | 鶴 |
| | 岬雪夫 | 天衣 |
| | 辻恵美子 | 梅檀 |
| | 宮川典夫 | 貝寄風 |
| | **大野鵠士** | 獅子吼 |
| 支部長 | **今津大天** | つちくれ |
| 副支部長 | 荻原正三 | 天衣 |
| | 藤田真木子 | 煌星 |
| | **横田義男** | 香雨 |
| 理事 | 小瀬千恵子 | 天華 |
| | 渡辺純枝 | 濃美 |
| | 加藤忠美 | 日輪 |
| | 後藤和朗 | 梅檀 |
| | 透乙美 | 香雨 |
| | 長野美代子 | 濃美 |
| | 森﨑義道 | 貝寄風 |
| | 瀬尾千草 | 獅子吼 |
| | 小森広司 | 香雨 |
| | 寺田好子 | 日輪 |
| | 富田澄江 | 鶴 |
| | 小野木武守 | つちくれ |
| | 足立賢治 | 天衣 |
| | **舩戸成郎** | 濃美 |

| 役職名 | 氏名 | 所属 |
|---|---|---|
| 監事 | **近藤磯子** | 梅檀 |
| 【支部長委託】 | | |
| 地区委員 | 大野公子 | 梅檀 |
| | 後藤政子 | 天衣 |
| | **野村務** | 天衣 |
| | 桐山晃一 | 日輪 |
| | 岩田佳子 | 貝寄風 |
| | 宮本光野 | 獅子吼 |
| | 舩戸成郎 | 濃美 |
| | 各務恵紅 | 獅子吼 |
| | 白橋美智子 | 香雨 |
| | 宇佐見俊二 | 日輪 |
| | 保浦小枝子 | 自在 |
| | **関谷恭子** | 濃美 |
| | **田畑清美** | つちくれ |
| | **澤木正子** | 鷹 |
| | **矢田邦子** | 梅檀 |
| 事務局 | | |
| （局長） | **舩戸成郎** | 濃美 |
| （副局長） | **野村務** | 天衣 |
| （会計） | **関谷恭子** | 濃美 |
| （編集長） | 藤田真木子 | 煌星 |
| （編集） | 小野木武守 | つちくれ |
| （編集） | **富田澄江** | 鶴 |
| （局員） | 岩田佳子 | 貝寄風 |

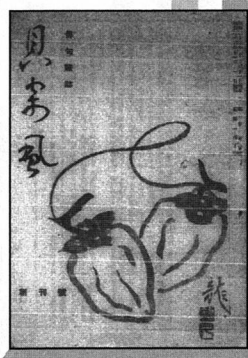
（令和４年１月現在）
太字：新任又は移動

## 県内結社の歴史・折々

# 「貝寄風」の歩み

## ―その行事の周辺―

宮川　典夫



### ○「淡墨桜」のこと

ともに老い一師一生石蕗の花　　近藤　一鴻

「貝寄風」創刊主宰近藤一鴻の第二句集『輪』の掉尾の句。句にいう「師」とは「濱」主宰大野林火。大野正（林火）は近藤博俊（一鴻）の横浜商工時代の師であり、生涯の師。

昭和二十二年十一月、「貝寄風」創刊。題字揮毫は林火・一鴻の師である「石楠」の臼田亜浪。

創刊号は二十一頁。亜浪は巻頭言「俳句の旅」、林火は「自らの言葉」を寄稿。各五句を寄稿。戦後の物不足、紙の手配に苦労の跡が見える。

昭和六十二年四月十一日、「貝寄風創刊四十周年記念事業」として、根尾うすずみ公園内に林火・一鴻師弟句碑を建立。この折、何某が句碑の裳裾にひそと石蕗の苗を植えたという。

薄墨ざくら風立てば白湧き出づる　　林火

薄墨桜山の天日五衰なし　　一鴻

伊勢湾台風（昭和三十四年）は根尾淡墨桜にも甚大な被害をもたらした。作家宇野千代氏がこの桜木の再生に尽力されたことは本巣市発行のパンフレットに詳しいが、この折の県東京事務所長が奇しくも近藤博俊で、知事と宇野女史・水上勉氏を交えての四者懇談会が開かれたのであった。

### ○「鵜供養」について

昭和四十八年、岐阜県俳人協会が設立され、会長に就かれた一鴻氏は鵜匠さんや観光協会に働きかけ、鵜塚建立と鵜供養を修することを提案。昭和五十八年、この事業は実現を見た。この折、（社団）俳人協会からは草間時彦・原裕の両理事が参列され、「貝寄風」誌上に次の句が残る。

つゆけさの鵜塚といへる石一つ　　時彦

鵜供養のひとりに強き秋日射　　裕

### ○「太閤忌」のこと

「太閤忌」は昭和五十八年九月、墨俣町内の寺院で法要と俳句大会が持たれ、以降、俳句大会は今日まで続く。一夜城趾公園内には次の句碑が建つ。

わが郷に城趾のこり太閤忌　　一鴻

### ○『貝寄風　歳時記―新年―』の発行

令和三年十一月、これまでの秀句を遺すため、『貝寄風　歳時記―新年―』を発行した。

催ひ井に亀の子束子水温む　　宮川　典夫

石鹸玉しつぽ丸めて生れけり　　はやし　碧

天神の春禽こぞり筆塚へ　　後藤　昇子

大楠の洞は神の座ひこばゆる　　中島　瑞枝

理不尽なスラブの戦禍春寒し　　金澤　恵子

羽づくろひしつつ呼び合ふ春の鴨　　寺松美代子

鞦韆を老いて漕ぎたるこの世かな　　奥田　宇滴

惜春の香煙頒つ大香炉　　丹羽　光江

谷川の音を近くに土筆摘む　　阿部ひとみ

れんげ野を汽笛鳴らして「ひだ」の行く　　森﨑　義道

田打女の一日や電気柵を解き　　横山やす代

夕桜小路を曲がる人力車　　武藤　昌代

春の水しづかに澱み始めをり　　大橋　紫

石垣の残る寄せ墓涅槃西風　　岩田　佳子

遠き地の朝刊に見る花便り　　菱田　菱庵

青春切符にこころ躍らせ春の旅　　原　百合子

竹やぶの上枝一閃風光る　　三輪千恵子

（令和４年６月号より）

### 鵜供養会のご案内

◇鵜供養会

日　時　十月十六日（日）午前十時より

場　所　岐阜市長良大前町一

「霊天庵」（長良橋北を東へ）

◇鵜供養俳句会・参加自由

（貝寄風社主催・俳人協会岐阜県支部後援）

日　時　十月十六日（日）午後十二時半より

場　所　長良川うかいミュージアム

（岐阜市長良川鵜飼伝承館）・会議室

投　句　三句（当季詠も可）

会　費　千円

### 編集後記

◇連日、コロナ、熱中症、物価高、そして国際不安など厳しい現象ばかり続きます。これらも「不易流行」と受け止めるならば出来る限り一人一人の英知で乗り切らなければなりません。

◇更なる皆様方のご健吟をお祈り致します。

（藤田・小野木・富田・舩戸）